

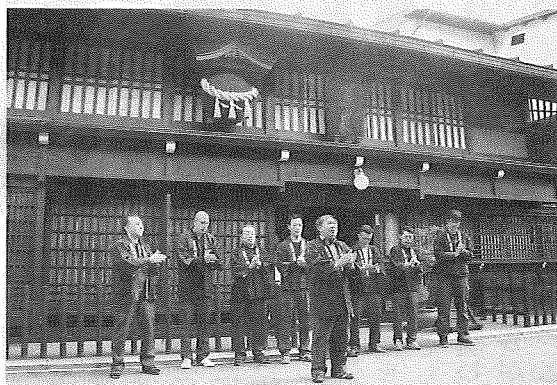
飛騨市民新聞

渡辺酒造店が杉玉の架け替え

1日から新酒の出荷始まる

古川町壱之町の渡辺酒造店(渡邊久憲社長)が一日、新酒が出来たことを知らせる杉玉(酒林)の掛け替えを行った。気多若宮神社の天木眞宮司により酒蔵で神事が執り行われた後、高山市の農家・中谷紀久雄さんが作った直径約八十センチ、重さ約七十キロの新しい杉玉を、蔵人らが同店の正

面玄関上、約六メートルの高さにある酒林屋根まで運び上げ、昨年のもとの掛け替えた。その後、岩手県で酒造りの作業中に歌われてきた『南部流酒造り唄』を蔵人らが披露し写真、通行人や観光客などへ新酒の振る舞いも行われた。今年には猛暑に加え雨が



が懸念されたが、粒が大きく良質な米が収穫

できたという。十月十日から仕込み作業を開始。岡田喜

栄治杜氏(72)は「例年よりいい物が出来ました」と出来映えを喜んでいました。渡邊社長(49)は「青リンゴのような香りに、とろりとして瑞々しい味

わいの酒に仕上がりました」と話していた。来年五月末までに一

升瓶換算で約六十万本分を生産する予定。初めに搾った酒は「蓬莱・新酒しほりたて」として、一升瓶換算で約一万二千本を出荷する。同店や各酒販店などで購入できる。一・八リットル詰めが二千五百円(税込)、七百二十ミリリットル詰めが千四百十円(税込)。問い合わせは同店0577-73-3311へ。